

テーマ

「アラブの春」で社会はどのように変わったのか？

適用分野

ポピュラー音楽研究、カルチュラル・スタディーズ、中東政治、中東現代史



研究名称

現代アラブのポップカルチャーと若者の政治意識

氏名所属

中町信孝 教授
文学部 歴史文化学科

内容

●特徴

「アラブの春」以降、大きく変化しているアラブ諸国の音楽、映画、アートなどポップカルチャーを通して、中東社会の政治意識の変容を考察します。

●研究内容

2010年末より中東地域で始まった「アラブの春」は、既存の権威主義体制に対する抗議運動であると同時に、音楽やアートを用いた若者たちの意見表出の場でもありました。こうした若者運動の潮流は、アメリカのウォール街占拠運動、香港の雨傘運動、そして日本のSEALDs（シールズ）による抗議運動など、さまざまな国で受け継がれています。これらの運動では、若者が路上で政治的意見を発すること、および、そこに音楽が大きな役割を果たしていることなどの共通点があり、いずれも「アラブの春」の大きな影響力がうかがえます。

アラブ諸国ではその後、権威主義体制への退行や過激派勢力の伸長に苦しむ国が少なくありません。しかしそのような状況の中でも、音楽、映画、アートなどのジャンルで若い才能の活躍が目立っており、

彼らはそれぞれの手段で政治的、社会的なメッセージを発し続けています。またそれらを受け止める若者たちの態度も、インターネット、SNSの普及によって、以前とは大きく変わってきています。

めまぐるしく変わりゆくアラブのポップカルチャーを分析することで、今後の中東社会がどのような方向に向かいつつあるのかを考えています。

また中東社会のこうした動向は、日本社会における若者文化と政治との関係性についても、大きな示唆を与えてくれるでしょう。

・著書：『「アラブの春」と音楽：若者たちの愛国とプロテスト』

(DUブックス、2016年)



研究室URL：<http://www.konan-u.ac.jp/faculty/letters/history/zemi/2008/01/index.html>

キーワード

アラブの春、アラブ音楽、アラブ映画、若者の政治参加

連携方法

■ 講演 □ 研修 □ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究